

第17期
「京都教師塾」

令和4年12月10日

塾生通信

学びの広場

December

京都教師塾通信

No.5

京都市教育委員会 教員養成支援室

第4回京都市教育学講座 中堅教員2名による実践発表 「子どもを豊かに育む教育」



第4回は、2名の中堅教員の方に実践発表をしていただきました。2名とも第7期の卒塾生で、岩倉南小学校の久寿米木友香先生は1年生の担任を、双ヶ丘中学校の野間勇輝先生は1年生の担任で社会科を担当されています。久寿米木先生は、「私のこれまでの今から」というテーマで、教師塾に通った学生時代に始まり、若手教員から中堅教員と自身のキャリアステージが移り変わる中で、仕事と育児の両立を目指しながら、ミドルリーダーとして教職員が学び合える組織作りに取り組む実践についてお話しいただきました。また、野間先生は、「目の前の子どもから学校全体の子どもまで育む」というテーマで、教職の魅力を中心に、授業、学級経営、そして、学年・学校運営への参画という3つの視点から、育てたい子どもの姿と実際に取り組んできた指導や手立て、自身が大切にしてきた信念などについて、具体的な事例を示しながらお話しいただきました。

分散会では、実践発表者の2名とも各会場を巡回していただき、個に応じた指導や全体指導など実際の指導場面で大切にしてきたことや、他の教職員との協働、保護者対応、または、ワークライフバランス実現のための工夫など、多岐にわたる質問の一つ一つに対して、丁寧かつ誠実にお答えいただきました。



第3回特別講座 講師;京都市教育委員会 学校指導課 安藤 昇 参与 「京都市の人権教育」



第3回は、京都市教育委員会学校指導課の安藤昇参与に、「京都市の人権教育」をテーマにご講義いただきました。冒頭には、京都市が平成27年から推進している「京都市人権文化推進計画」についてふれ、“ひとがつながり みんなでつくる やさしさあふれる 人権文化の息づくまち・京都”という基本理念を実現するために、京都市が進めてきた施策についてご説明いただきました。また、重点課題として掲げられているたくさんの視点の中から、“女性と男性が互いに尊重し支え合うまちづくり”を例として挙げ、男女共同参画社会について解説されるなど、具体的な取組について深く学ぶことができました。さらに、LGBT等の性的少数者の人権尊重など、現代社会でクローズアップされている人権課題にも言及した上で、学校現場における人権教育の実際へと展開し、教師が「鋭い人権感覚を身に付ける」ことの重要性について説かれました。子どもや保護者の願いを聴き、見えにくい課題とも向き合える教師を目指していきましょう。



仲間のレポートに学ぶ

1組



第4回京都市教育学講座 【実践発表】 「子どもを豊かに育む教育」を受講して

本日の講義を通して、主に2点のことを学びました。1点目は、「頼ることの大切さ」です。私は講義を受けた中で中学校籍の先生の「怖がらずに頼ることを大切にしてください」という言葉がとても心に響き、分散会で発表しました。そして、グループで交流する中で「教師間の交流の大切さ」の視点を得ることができました。さらに話し合う中で、この二つの大切なことは「頼るためにはどうすればいいか?」という点で結びつくことに気が付きました。小学校籍の先生の実践の中にも、「カフェ」や授業の見せ合いなど、頼れるための場、チームとして組織として動くための取組がありました。これらのことから、自分一人で「頼ろう」と思うだけではなく、頼れる場を自らつくり出していくこと、そして何より「聴く」ことと、「訊く」ことが大切なのだと考えました。このことを実地研修はもちろんのこと、これから始まる専門講座で自分が今後立場について、特に求められることを聴くことに生かしていきたいと感じました。2点目は、「自分で語れる」ことの必要性です。生徒に話す機会、考える機会を与えるだけではなく、まず自分が語れることを大切にしていきたいと思いました。このことは、第2回の東良先生の“教科の本質を見極めること”にもつながると考えます。私が目指す国語教員であれば、教材をただ読む、理解できるというだけではなく、その教材のおもしろさをまず教員が語れること、そして単元ごとに、そして一年を通して、何を生徒たちと学べるのか真剣に考えることが大切であると思いました。その教師自身のもつものが、ゴールとなり、生徒を導く鍵になると考えます。このことを授業実践講座で活かし、他の塾生の模擬授業からより学んでいきたいと思います。また、実地研修でも教員の方が考える面白さとは何か考えながら、授業支援をしたいと思います。

若手の先生方と同じく「すべては子どものために」という思いからの実践発表でした。お二人が、それぞれの悩みを糧とし、さらに一步前進したことで、やりたい事に向かって頑張れる「今」があることが伝わってきました。心に残った「頼ること」「聴くこと」「訊くこと」「自分で語れること」について、これまでとこれからの講座につなげながら深く考えられましたね。「頼れる場」は互いに高みを目指す場にもなります。すてきですね。国語科の学習で子どものゴールとなり、導く鍵となる「語れるもの」を是非もてるよう、さらに学び続けていきましょう。



2組



3組



4組



5組



6組



7組



8組



補講(11/29)の様子





フィールドワーク
花背山の家に行ってきました！
＜11/19(土) 68名参加＞



京都バスで山の家へ！



入所式・塾生代表挨拶



活動①アイスブレイキング



野外活動において、子ども同士の信頼関係やつながりはとても大切です。実際にゲームに取り組むことで、体験的にそのことを学びました。



活動②野外炊事



野外炊事では、カレーライスを作りました。火起こし、調理、片付けなどにおける役割分担や安全面への配慮など、活動を楽しみつつ、指導者に必要な視点や具体的な指導の在り方について学びました。

活動③オリエンテーリング・冒険の森



ここでは子どもの協力を促す活動の大切さを確かめました。また、安全に活動するための適切な見守りや声かけについて学びました。



退所式・塾生代表挨拶



指導者の視点に立ち、野外活動の魅力と留意点について学びました。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
『**学びの共有と実践の促進**』を実践しよう！



京都はくくみ豊華